学力向上のための重点プラン【小学校】　　新宿区立落合第六小学校

■　学校の共通目標　　【ＨＰ公開用・様式１】

授業作り	重点	友達との関わりの中で児童が自ら考え、表現できるような指導内容の工夫を図る。ＩＣＴ機器などの活用を通して、個別学習への深まりをめざす。
環境作り		主体的に児童が学び合う場と機会の設定を行うとともに、特別支援教育・ユニバーサルデザイン・個別学習の視点を取り入れた環境作りを行う。

■　学年の取組について

学年	学習状況の分析（各種調査から）	学校が取り組む目標（日常の授業の様子から）	目標達成のための取組
1学年		・日常生活に必要な基礎的な国語の技能を確実に身に付ける必要がある。 ・人との関わりの中で伝え合う力や思考力、想像力を身に付ける必要がある。 ・加法及び減法の意味について理解し、正確に用いたり、計算したりする力を身に付ける必要がある。 ・数についての感覚、量とその測定についての感覚、図形についての感覚を豊かにする必要がある。	①デジタルドリルや練習プリント等による反復学習 ②話し合い活動の充実 ③読書活動の充実 ④具体物を活用した学習展開の工夫
2学年		・既習の漢字について、正確に書き取る力を伸ばす必要がある。 ・相手の言葉を手掛かりにしながら、その人がうまく言葉にできない思いや考えや意図をくみ取って聞く姿勢を養っていく必要がある。 ・基本的な計算の技能について、速さと正確性を伸ばす必要がある。	①デジタルドリル及び練習プリント等の活用 ②個別指導の充実 ③休み時間及び放課後学習の活用 ④ペア及びグループ活動の充実 ⑤話し手を意識した聞く姿勢の向上
3学年	・国語では既習の漢字の活用についてさらに力の向上が必要である。 ・班など複数人で話し合いをするときなどに、話し手の思いを受け止めながら聞こうという姿勢を身に付ける必要がある。 ・算数では、大きな数の掛け	・話に興味をもち、自分と比べながら、話したり聞いたりする力を伸ばしていく必要がある。 ・自分の考えを書く力を伸ばしたり、文章を書くことへの抵抗を減らしたりしていく必要がある。 ・新出漢字の正確な書き取りや不十分である既習の漢字について、正確に書き取る力を伸ばす必要	①グループ活動の充実 ②感想や考察を書く機会の充実 ③見通しをもった学習活動の展開。 ④デジタルドリルやプリントを活用した反復練習。

	算やそれに付随する繰上りのある足し算について習熟が必要である。 ・割り算やそれに付随する九九について復習が必要である。	がある。 ・計算技能のより確実な定着が必要である。 ・自ら計画を立て、見通しをもって学習に取り組もうとする意欲と態度を育てる必要がある。	
4学年	・国語では、前年度の漢字の書き取りについて復習が必要である。 ・国語をはじめ、書いてあることを読むこと（音読）について、声を出すことに苦手感を感じたり、間違えて読むことへの抵抗感を感じる児童への指導が必要である。 ・算数では、四則計算及びかけ算九九や筆算など、前学年の復習も含めた指導が必要である。	・漢字の学習では、「指書き・なぞり書き」など、体のいろいろな感覚を使って、繰り返し練習ができるよう、授業中に学習の時間を確保する。加えて、家庭とも連携し、習熟率を高める。家庭学習については、練習方法の見通しがもてるよう、事前に学習方法を指導する。 ・音読については、リズムの良い詩や、名文などの児童が読みたくなるような教材を用意する。また、音読の方法を工夫しながら、楽しく繰り返し練習することができるようにする。 ・算数では、問題練習において難易度や問題数を選べるようなコースを設けるなど、児童の習熟度合に応じて学習ができるよう工夫をする。また、タブレット端末を活用して、デジタルドリル等でも学習内容の定着を図る。	①漢字の学習方法の指導及び、児童の学習時間・機会の確保。 ②家庭と連携した学習機会の確保。 ③音読したくなるような、教材の選択及び、指導法の工夫。 ④個に応じた指導法の工夫。 ⑤デジタルドリル等による反復学習の機会の充実 ⑥読書活動の充実。
5学年	・国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で力の向上が必要である。 ・算数では、計算や作図をより正確に行い、児童一人ひとりの力の向上がしつも必要である。	・「話すこと・聞くこと」については、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えたり、自分の考えと比較したりしながら聞くことができるようにする。また、「書くこと」については、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなど、伝えたいことを明確にして書くことができるようにする。 ・算数では、デジタルドリルなどにより，個に応じた指導・支援に努めるだけでなく，数学的活動を多く取り入れ，上位の児童の思考を	①話を聞く態度の指導の充実。 ②テーマ作文の実施。 ③習熟度別学習の充実。 ④個に応じた指導の工夫。 ⑤デジタルドリル等を活用した反復練習。

		広げ，算数の良さを体感できるようにする。 ・授業内では，多様なものの考え方（友達の発表）や筋道立てた考え方（プログラミング的思考）を大切にさせるよう指導を工夫し，それらをいかした自分なりのより良い表現ができるように助言していく。 ・あきらめず，挑戦する学習態度を醸成する。	
6 学 年	・国語では、筋道の通った文章となるよう文章全体の構成や展開を考えて書く力の向上が必要である。 ・算数では、全体として基礎学力の向上が必要であり、それを通して、目標をもち自ら学習を進め、深める児童の育成が必要である。	・個別最適な学びを念頭に置きながら，個に応じた指導・支援に努める。その際，デジタルドリルや東京ベーシック・ドリルの活用を図る。 ・授業では、教科書も含めた友達の考えなど複数の解法に目を向け、その良さを尊重し、よりよい自分の考えを粘り強く導いたりすることの大切さに気付くことができるよう指導にあたる。 ・書きたい思いや目的に応じた事例など、具体的な内容や材料を集めさせる。それらを分類・関係付けたりして伝えたいことを明確にして書くことができるよう、国語に限らず他教科でも文章で表現する機会を多く取り入れ、指導する。	①児童ひとり一人に即した課題の設定 ②算数の練習問題におけるコースの設定など、個に応じた指導法の工夫。 ③デジタルドリルの活用 ④東京ベーシック・ドリルの活用 ⑤ペア学習やグループ学習の場の多様化。 ⑥読書活動の充実。 ⑦タブレット端末や図書を利用し情報収集能力の育成。 ⑧文章表現の場を多く設け、児童同士で見合う時間の設定。

学力向上のための重点プラン【小学校】　　新宿区立落合第六小学校

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
【第１学年】 ○「は」「を」「へ」や濁音、撥音、拗音についてはプリントやデジタルドリルを活用して繰り返し練習し、定着を図っており、テストなどでも成果がみられる。 ▽加法や減法の正確さとスピードについては個人差が大きい。	▼学習の初めに計算練習の時間を設け、繰り返しの練習で正確さと速さをつけるとともに、個別にも計算カードやタブレット端末を活用しさらなる定着を図っていく必要がある。
【第２学年】 ○新出漢字とともに既習漢字を書くなどの、書く機会を増やすなどして繰り返し練習し、定着を図っており、ノートなどで活用することが増えてきている。 ○計算については、マス計算を日常的に取り入れることにより、計算のスピードが上がっている。 ▽ペアやグループでの活動で話し合いの機会を設け、互いに聞きあって感想を述べるなどの活動を取り入れているが、全体発表の時間では、聞き取れていないなどの課題が見られる。	●今後は探究ノートを活用して語彙を増やすなどの活動の時間を増やし、漢字を書く機会をさらに増やす。 ●スピードだけでなく、正確性を重視する指導を継続する。 ▼「いいねカード」を活用して、全体発表の際も集中して聞く姿勢を保てる時間を増やす。
【第３学年】 ▽話し合い活動は学習の中で取り入れているが、スムーズな話し合いの進行や、意見のまとめ方など、課題が見られるので、継続が必要である。 ○基礎的な計算については、タブレットやプリントを活用し反復練習をした結果、定着してきている。	▼教科学習や学級活動の中で児童同士で話し合う機会を増やし、司会など話し合いの中での役割についても徐々に理解を深めさせていく。 ●図形や単位など、概念系の学習についても、ICT を活用して図解したり問題を解かせたりして理解を深められるようにする。
【第４学年】 ▽書いてあることを読むこと（音読）については、多くの教科で、継続指導が必要である。 ▽（新出）漢字については、漢字スキルを上手に活用して繰り返し指導していくとともに、家庭での練習を再度呼び掛けていく。 ○算数では、難易度や問題数を選び、児童の習熟度合・学習速度に応じて主体的に学習ができるように工夫を続ける。また、タブレット端末を活用して、デジタルドリルで学習内容の定着を図る。	●多くの教科で、教科書や資料を読む（音読する）ことを意図的に位置付けて継続指導していく。 ●単元に入るときに、漢字スキルを行う時間を設定し、新出漢字の練習を確実に行う。 ●児童に応じて、教科書や計算スキルの問題数・難易度に変化をもたせ、主体的な学習への意欲付けをより高めていく。デジタルドリルは、家庭での学習も含め、より確実に実施させていく。

【第５学年】 ○「話すこと・聞くこと」については、自分の考えと比較したりしながら聞くことができるようになってきた。 ▽「書くこと」については、感じたことや考えたことなど、伝えたいことを書けるようになってきたが、「明確に」という点ではまだ不十分である。 ▽算数では、知識・技能の習得に時間がかかり、数学的思考を広げ，算数の良さを体感させるまでにはまだ至っていない。 ・あきらめず，挑戦する学習態度を醸成する。	●引き続き、ペア、トリオ、４人組と人数を変えながら話し合い活動を意図的に設けていく。 ▼友達同士の文章を見合ったえい、聞き合ったりしながら、語彙力や表現力の幅を増やしていく。 ▼デジタルドリルを効率よく活用し、授業の時間では、もっと数学的活動を多く取り入れ、算数の楽しさを味わわせる。
【第６学年】 国語 ○目的を意識して、中心となる言葉や文章を見付けて要約することができるようになってきた。 ▽筋道の通った文章となるよう文章全体の構成や展開を考えながら自分の考えを書く力はまだ不十分である。 算数 ○表やグラフ等のデータの読み取りや活用ができるようになってきた。 ▼図形の領域や割合の単元において苦手意識をもっている児童が多く、全体的にも正答率が低い。	●あらすじや筆者の考えを感想文や紹介文に書いたり、読書活動の充実を図ったりする。 ▼各教科を通して、自分の考えを書きまとめる時間を適宜設定することで、一人ひとりの力を底上げする。 ○ペア学習やグループ学習の場を活用し、多様な見方・考え方に触れ合いながら数学的思考力を高める。 ▼実生活に即した体験活動やタブレット端末を活用した復習など、個別最適な学びを推進し、個に応じた指導・支援を継続する。